

情報・データサイエンス・AI パッケージ 自己点検・評価報告書 (令和 6 年度実施分)

教育本部全学教育統括部
情報教育・データリテラシー部門

0. 総評

令和 2 年度より全ての新生が入学することを目指してきた、情報・データサイエンス・AI パッケージであるが、新生の履修率 100%を達成することができた。一部のオンデマンドで提供する講義については、授業改善アンケートで、教員と学生、学生間のコミュニケーションが不十分である等の指摘が続いているが、オンラインでのグループワークや AI エージェントを導入することで、コミュニケーションの機会を増やすよう改善してきている。令和 5 年度より準備してきた、海外協定校と連携したオンライン国際協調学習を拡充し、産業界を含む学外有識者からも高評価を受けている。

1. 「学内からの視点」における自己点検・評価

広島大学の全ての学部で、本パッケージが卒業要件となり、新生の履修率 100%を達成した。授業改善アンケートでは、オンデマンドで講義提供を行なっている科目で「学生同士や教員と議論したりプレゼンテーションをしたりする機会がありましたか。」が、全学平均を大きく下回っている。全体的な改善には至っていないが、必修科目としている「情報・データ科学入門」では、オンラインでのグループワークを実施することで学生同士、あるいは AI エージェントと議論する機会の提供をスタートした。加えて、海外協定校と連携したオンライン国際協調学習を拡充し、海外の学生を含めた学生間や教員との議論、発言の機会を増やす等の改善を行なった。また、平日の夕刻以降と土曜日に実施している、大学院生による学習支援についても、対面での対応に加え、オンラインサポートを開始した。

2. 「学外からの視点」における自己点検・評価

本パッケージは令和 2 年度開始のため、修業年限 4 年の学部・学科等で、本教育プログラム修了者が卒業したところで、修了者が活躍するのはこれからである。本パッケージは、地域企業との共同研究によるイノベーション創出などに取り組む広島大学 AI・データサイエンス教育研究センターが企画、運用し、実務経験をもつ教員を配置することで地域と産業界からの視点を取り入れている。数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムが作成したモデルカリキュラム（リテラシーレベル）と、情報処理学会が定める情報学のカリキュラム標準により、学術的なレベルも確保するようにしている。また、地元企業と共同開発の生成 AI によるグループワーク支援システムを活用した国際協調学習については、産業界を含む学外有識者による外部評価で、高い評価を受けている。

3. その他（特記事項）

本授業では、データサイエンスと AI に関する教育、シミュレータと AI を利用した体験型教育、国際協調学習等で特色ある実践を行っており、学術論文、関連研究会、国際会議等で発表してきた。令和 6 年度は、高等教育における情報技術の活用を推進する拠点である大学 ICT 推進協議会、および米国の EDUCAUSE 年次大会でも開発システム等について報告し、国際的な成果の普及と改善に努めている。
参考) "広島大学における情報・データサイエンス・AI パッケージ", 稲垣知宏、村上祐子、大学教育と情報、No.3・4 (2025) 32-36、"Virtual International Education Facilitated by Generative AI", T. Inagaki, Y. Murakami, T. Takahashi, Y. Tsuchimoto, 10th annual IAFOR International Conference on Education in Hawaii (IICE2025), USA, January 2025.